

○議長（古川元規） ただいまの出席議員数は7人です。定足数に達していますので、休憩前に引き続き会議を開きます。

森 弘秋議員。

○5番（森 弘秋） 5番森弘秋です。

まずは、能登半島地震並びに豪雨災害に遭われた地方の皆さん方にお見舞いを申し上げます。そして、氷見市の液状化対策、大変苦勞されております。痛み入ります。

昨日、高市総理が現地を訪問して、その現状を把握されました結果、一部ですが、補助金等の増額をしましょうと、旅館再生に向けてと語っておられました。うれしいことです。

私のかつての同僚が氷見市長をしております。これも頑張っております。ありがたいことです。

さて、通告しております村の財政状況ですが、これは、前原議員、なお竹島議員からも質問されたとおりです。若干ダブるかもしれませんが、よろしくお願ひしたいと思います。村長からは、そこら辺りはすみ分けをして答弁願ひたいというふうに思います。

さて、通告しております村の財政状況ですが、今年の9月議会で村長が言った言葉、大変重たいんです。実現不可能な公約を掲げるべきでなかった。こんなことを言うんですよ、村長は。幾つかの事業を停止しなければならない。やりたいことがあっても投資できる予算がないと言っておられました。私は村長の言葉とは信じ難いですが、そう言うておられました。

やりたいことがあっても投資できる予算がない、そして「金がない、金がない」と言うておられる。この言葉が私自身は理解できない。

村の予算からして、できる範囲の事業は限られているんですよ。その少ない予算をいかに村民のために使うか。村民の福祉の向上に予算を組むか。いかに工夫するか。そこが村長の腕です。見せどころでしょう。

村長は当初、大きく4つの公約を掲げておられます。まず、「未来へと持続する村づくり」。舟橋村を未来へだけでなく、さらに先の未来へと持続していく村をつくりますと。私もよく夢を語りますが、夢は大きいほどいいのです。夢ですから、若干できない夢もあるかもしれませんが、しかしその夢に向かって突き進むのが、周りを見ながらやっていくのが村長。先ほど竹島議員も言いましたけども、執行力、編成力、みんな持っておるんです。

これは少し辛口に物を言いますが、先ほどもありましたように、自動運転バスの導入。答弁ありましたけど、その当時、私は伺っておったんですが、これもどこまで進んでおるのですかね。それから、関係人口3万人の達成等、公約を挙げた。だから、できないから陳謝。ごめんなさいと言っておれば済む。そんな問題じゃないでしょう。

そういうことで、関係人口の達成にあっては、サンフラワープロジェクトの計画が進んでいないと思われまます。

そして、村長は今年の6月議会で、7年度以降、一定程度の面積が確保できれば、ヒマワリ畑を迷路にして遊べるように、また休憩ができるように、老若男女誰でもが関わりを持てるよう、ここから大事ですね、精神的な安心かつ環境的な安全につながると考えていると。いや、本当にこれはいい言葉です。これをやっぱり実現するのが村長でしょう。やれるんですよ。それを前へ進めてもらいたい。ですから……。

その後、面積の確保、村長はどこまで汗をかいたんですかね。私は全然、あの近辺の人とも、何も聞いておりません。

それから、このサンフラワープロジェクトについて、昨年、秋田県の大館市から日景賢悟氏、その当時の市議だったかな。今ちょっと、でなくなりましたけどね、招いて講演をされた。

まあ、ここで金額を言って何ですが、三十五、六万ぐらいかかっております。日景賢悟氏だけを呼んだ、講演料とかを含めて、旅費とかね。それから、地方創生に係るコンサルティング業務と、ほかに目に見えない多くの金をつぎこんでいるのです、人件費、ボランティアなど。しかし、その成果が、公言していたにもかかわらず、全く見えない。先ほど言いましたように、苦言が混じっております。

一歩でも前に進みましたかね。有言実行ですよ。口だけなら、誰でも言える。

それから、各方面との提携を結んでおられるが。これが村長の言う、未来への持続づくりなんでしょうかね。その布石ですかね。私には何で……。もう少し村民のために金を使う必要があるんじゃないかというふうに思います。

この後の答弁はどうなるか分かりませんが、何せ先ほど言いましたように、村長室に行って担当と話をしても、「金がない、金がない」の連発。そして、将来的には村の基金の取崩しの検討を深めなければならない。皆さんにネガティブな心象を持たれたと察していると。

そこで、先ほど竹島議員もありましたけども、こんな状況で来年度予算を組めるんで

すかね。幾つかの事業を停止しなきゃならんと。本当ですかね。

また、税収を増やすために投資に回すと。基金を食いつぶしてしまう前に投資をした
いと。どんな投資か分かりませんがね。

そして、先ほど前原議員も言うておりましたように、南太平洋のナウル共和国と同国
パピリオンで広報連携協定を行っておられます。これも投資ですかね。

ちょっとナウル共和国を調べて見たんですけど、古しいあいつかもしれないが、人
口1万2,000。面積が日本の国の2万分の1ぐらいかな。そういう南太平洋の小さ
な島国、円い島国ですね。

その中で、新聞報道によれば、ナウル共和国と広報連携に関する覚書を結び、情報
発信で、先ほどちょっと答弁もありましたけど、それはすみ分けして答えてほしいと思
います。ナウル共和国、「ナウルくん」とコラボしてグッズをつくりたいというふう
に言うておられましたのであります。

先ほども言いましたけども、村長の考えは、まず村民の福祉向上のため、これは役立
つんですかね、ナウル共和国。先ほど言いましたように、1万2,000。小さい国だ
といっても、これから発展するんですか、どうか分かりませんが。

ここに一つ情報があります。これは再質問で言おうかと思ったんですが、ちょっとネ
ットで調べたんですよ。そしたら、「消滅の危機、ナウル共和国のいま」。たくさん論
文が出ておるんですが、だだだだだだ、俗に言う斜め読みをしてやったんですが、
読んでみますと、何かよく分かりませんが。

こういったことを考えますと、何か疑問を感じると。言うなれば、国際的に活躍し、
国際的に知名度上げ、日本の舟橋村、ここにありというふうには地球上で宣伝されるんか
な。となれば、大したもんです。それとも、今言ったようなことについて、仕掛けをさ
れておるんですかね。あるいは、一過性で終わるのか。

まあまあ、最近の言葉を借りますと、長いスパンで物を見る。非常に大事、これが目
的達成になる。けども、長いスパンで見ることも大事ですが、成功のために、目的と
か結論は何ですかね。

先ほども言いましたけども、村民の福祉の向上が先であると。外からいろんな情報
を持ってきて、それによって村民の幸福を上げるというのは大事ですけども、まず足元
を見詰めるといいますか、私は大事でなかろうかというふうに思います。

これは先般の全協でもありましたので、若干理解をしました。

重複するかもしれませんが、何せ村長は「投資する、投資する」。けども、投資する予算がない。その投資するというのは、もうちょっと目に見えるように、何に投資されるのか。それから、この金を使って、財源はどうかと。これだけここに金があっさかいに、この財源を使って投資をするんだということが分からない。挙げ句の果てに、村長は、村人にとって利益になる事業を年度内に案内できると期待している。本当ですか。何を期待されておるんですかね。

令和6年度の財政指数力は、実質赤字比率、連結実質赤字比率、これはゼロです。実質公債費比率、将来負担比率、これについても限度枠内。だから、特別村が困っておるということでもない。これは6年度においても問題ないし、5年度においても問題ありません。

少し視点を変えて、先ほども竹島議員からありましたけども、私たちは鳥取県の日吉津村に行ってきました。この日吉津村は、今後、どうなったか分かりませんが、合併しないデメリット、そのまま読みますね、この書いてあることを。大きな自治体も小さな自治体も同じように事業を行うために経費の負担が大きい。特に現在国が推進する自治体システムの標準化や自治体DX等は、システムに関する委託料が膨大に増えており、それに対する一般財源の確保が厳しくなっていると。

あのとき私も思ったんですけど、いや、こういった予算というのは、私はほとんど国から来るんじゃないかと。補助金か、交付金か分かりませんが、というふうに感じておって、質問をしようと思ったんですが、止められましたので、やめました。こういったことは、舟橋村でも同様と聞いております。

そこで、8年度予算については、その当時、村長は、外的要因で6,000万円から7,000万円が使えなくなる。多分このことかなというふうに思っております。村長が言いましたように、最後は基金を取り崩す。

基金というのは何のためにあるか。そういう災害とか、いろいろなものがあつたときに、緊急、やむを得るときに基金を使う。

今の場合も基金を取り崩すと申しませんが、ちょっとどうなんかなと。最後は、公約実現は困難と反省しております。

そこで、村長は、現状を踏まえて、8年度予算、若干答弁はありましたけど、もう少し細かいことを、ここまではできる。これはできないと。言っている人に見通しを示してほしいなというふうに思います。

くどいようですが、「投資、投資」と言われますけど、何に投資されるのか。村民のために何をどうされるんですか。サンフラワープロジェクトのように、尻つぼみにはならないように。線香花火なら、誰でもぱっぱとやれるんです。

先ほども言いましたけども、長いスパンで見ること大事ですが、成功の事業は何ですか。ムダ金を使わないようにと思います。それから、空回りのないように。

ここで、前回も言いましたけども、村民の意見で、こうありましたね。これは3月議会でもお話ししました。村民の言葉です。半年間か1年か分かりませんが、一切何もせず、無責任で、村民を何だと思っているのか、痛恨の極であると。こういう意見がありましたね。

村長は、村民のことを考えて、中を見て、何をすべきか、少し考えていただきたいなと思います。村民が少しでも快適な生活を送るために、幸福度の向上のために頑張っておるのです。

さて、冒頭にも述べましたけども、未来へだけでなく、さらに、ここがいいところですね、さらに先の未来へと持続していく村をつくりたいと。こういういいことを言っておられます。皆さん、覚えておいてください。そして、村民の幸福度の向上のために、これからもどんな仕掛けをされるんですか。

村長は、「子育てしたくなる村づくり」「高齢者にも安心な村づくり」「公平で透明な役場づくり」のために、近未来を見据えて何をされるのか、村長の的確なる答弁をお願いしたいというふうに思います。

村民あつての舟橋村です。終わります。

○議長（古川元規） 渡辺村長。

○村長（渡辺 光） 5番森議員の村の財政状況と今後の方策についての質問に併せて、今ほどいただいた質問に対して答弁をさせていただきます。

まず、「昨年9月」というお話だったんですが、「今年9月」ですね、の常任委員会の私の発言が切り抜きの一部報道で掲載され、私の趣旨が間違いなく伝わらないような内容で村民の皆様にもお伝わりをしまして、私のほうにもご質問をいただいておりますし、今ほど森議員からもいただきました質問も、おおむねそういった認識の違いや誤解であったり、誤認に著しく近い内容の発言もあったというふうに思いますので、訂正も踏まえ、答弁をさせていただきます。

今ほどの質問の中においては、私に対しての厳しいお言葉もあったというふうに思い

ますが、中には激励の言葉もあったと思いますが、ちょっとすみません、全文をもってして質問の内容があまり明確に私のほうに伝わってこなかったので、私なりの回答をさせていただきますが、そこに不足があれば、またご質問いただきたいと思います。

まず、全体にお伝えしたいことといたしましては、夢に向かって進むことが私は目的ではなくて、形にすることがやはり政治家としては最大の目的であろうと思います。夢に進みながらも形にする。これに重点を置く必要があると思います。その上でやはり予算は必要でありまして、予算がない以上は形にすることはまかり通らないということで、私は予算が足りない、予算が必要だということを従前よりお伝えしております。

そこがなかなか伝わらないのかなというふうに思いますし、そこを批判しているが、しかし住民の皆さんには金を使えというところに、私はロジックにおいては少し破綻を感じておるところであります。住民の皆さんにお金を使う上でも、私はお金が必要であり、それに向けての投資をしたいということを来年度予算編成においては行いたいという旨、竹島議員の質問にもお答えをさせていただきました。

踏まえてになりますが、先般議員各位にはご説明をしたとおり、外的要因によって非常に厳しい財政状況が見込めるということはお伝えしたとおりであります。12月議会における全員協議会後に国からの通知がございまして、その厳しい財政状況を見越しておりましたが、国の支援もあるということが少し見えてきましたので、若干ではありますが、その厳しい財政状況は回避できる見込みも見えてきております。

しかしながら、こちらは確定ではないので、予想という段階ではありますので、まだ気を緩めるわけにはならないというふうに思っております。

公約に対して、その達成のために、来年度は税収を上げる取組に資する投資を行いたい。そこに重要度を高いものとして進めてまいりたいというふうにお伝えしておりますが、その投資は何ぞやというお話だと思います。

その投資に関しては、議員の皆様も視察に行っていたかだと思います。茨城県のほうに視察へ行っていただいた。あの投資が、すなわち税収増につながる投資だというふうに思っております。

具体例を出して自治体の名前を出すことは、この場においては控えますが、あの一例をもってして税収を著しく増加させた自治体は、皆様のご視察の結果でお分かりいただけるものだというふうに思っております。

この税収増の取組に対しては、踏まえて議員の皆様も共感いただけるものだというふ

うに私は受け止めておりますので、その詳細は、ご質問いただきましたが、割愛をさせていただきたいと思います。来年度予算編成として3月議会に議案を上げさせていただいた際には、その詳細をつまびらかにご説明させていただきたいと思っております。

村民の皆様の福祉向上のため、様々な取組を進めるための原資を稼ぐ。これが舟橋村では今まで圧倒的に足りていなかったというふうに考えております。お金を稼いで、そのお金をさらに投資に回していく。いわゆる民間企業の経営的観点が必要だったということがこの舟橋村の問題点でありますので、身の丈以上の取組はできないというのが舟橋村の問題です。

今与えられた税収以上の取組を行う上で、私は投資をして原資を稼ぐというこの取組は、この舟橋村の明るい未来をつくり上げていく上で必ずや必要だと思っております。これに対して反対をなされるというのであれば、恐らくは税収なり、舟橋村は20年後以降は人口も減っていきますし、そういったシュリンクしていく自治体なりの取組しかできなくなるというのが私の考えでありますので、そうならないためにも、今まだ元気のあるうちにしっかりと、そういった税収を積み上げて、身の丈以上の取組ができるような取組をするというのが大事ではなからうかと思っております。

自動運転バスについても、今どうなっているか分からないというのは、まさにそのとおりだと思います。私は、本年度自動運転バスを入れるということは一言も言っていません。その導入の可否を本年度中に決定するという事は公約にも掲げておりました。2025年度に導入するとメディアの方も勘違いされているんですが、私はその導入の可否をしっかりと判断するために、今日に至るまで先進地域の視察であったり、一番近い事例で申し上げますと、トヨタの岐阜のサービスセンターのほうまでお招きいただいて、先駆的な車両の実車を拝見させていただいたということになります。そういった視察を行いまして、私なりに知見を増やしてまいりました。

皆様、単なる交通手段の一つとしてバスを多分お考えになっているのではなからうかと思っておりますが、私としては、バスは単なる移動手段であってはならないものと思っています。このバスに乗ることで得られる付加価値をつくらない限り、バスは単なる移動手段でしかなく、自動運転バスじゃなくても、極論、いいと思えますし、単なる乗り物であれば、移動手段であれば、全てその要件は満たされると思っています。

ですので、地方の公共交通は移動手段ではない何か別の要素を盛り込まなくてはならないというこの盲目的な考えは、意外とほかの地方公共団体においてなされていない考

えでありまして、これが舟橋村で仮に実現するとなれば、先駆的な事例になるのではないかと思います。

このバスに乗ることで、地域のコミュニティが促進される。バスに乗ることで、誰かとお話できる機会ができる。そういったような形で公共交通というものに付加価値を乗せたそういう施策を私は実現したいと思っており、本年度に至るまで様々な視察を進めておったところであります。

続いて、関係人口の3万人のくだりについてですが、こちらも厳しいお言葉をいただきました。

ご指摘のとおりかと思いますが、この関係人口の定義づけには諸説あります。私も公約に掲げたときに、何をもちいて関係人口とするかというところは少し幅がある状態でありました。

いろいろお調べすると、その一例としては、もちろんふるさと納税をいただいた方を一つの関係人口として捉えるという説もあれば、さらに広義な意味で言うと、この「舟橋村」という言葉を耳にしたり目にしたりした方が、少しでもこの舟橋村に意識が働くということをもってして関係人口となす説もあるようです。

この後者、前者ということで、前者については、どれだけの方々が舟橋村のふるさと納税の寄附をしていただけたかと。その数値によって測定が可能であり、この数値においては、いずれかの段階において算出はしたいというふうに考えております。

後者について、後者は今ほど申し上げたとおり、「舟橋村」という言葉を耳にしたり目にしたりした方が舟橋村にちょっとでも意識を向けていただいたということになりますが、こちらについては、私がSNSで積極的に情報発信しております。そういった情報発信を基に「舟橋村」というワードを耳にしたり目にしたりした方、こちら、リーチ数、どれだけの方にそれが届いたかという、そういった数値で、ある程度は算出できるのではないかと思います。

私が発信したSNS上において、この舟橋村という内容の表示がなされた方、一つの投稿に対して一番人数が多かったもので言うと、12万2,000人。同様に、私と他者との舟橋村のやり取りで、第三者の方に表示されたもので最大のもので29万1,000人の表示になっております。これはあくまで表示なので、私ほうのみにはするつもりはないので。この数字はあくまでも参考値として、私は前者ですね、ふるさと納税の寄附をいただいた方が合計3万人という数値を引き続き目指してまいりたいと考えて

おります。

これに関しては、自分に甘いハードルを課すのであれば、そのSNSにおいて舟橋村を見てもらえた方という数字で言うと、もうとうの昔に30万人を超しているのに、3万人の10倍達成しましたよねと言うことは簡単ではありますが、私はあえてハードルの高いほうを自分に課したいというふうに思っております。

続いて、サンフラワープロジェクトに関して、面積の確保ではありますが、昨年私は一部拡充の考えをお示ししたというのは記憶にありますが、本年度はできませんでした。

麦を終えられた田んぼを利用して、その6月、麦を刈り取った後にヒマワリを植えたいというふうなお話をしておりましたが、今年は調整がつかず、実現ができませんでした。来年度に向けてはまだその農業者の方とはそういった協議を続けております。

そして、椅子を設けたり迷路をつくったりというお話も提案いたしましたが、今年は私の判断で行いませんでした。というのも、開花の時期に圃場をご覧いただいた方であればご理解はいただけると思うんですが、見ておられない方のためにあえて説明いたしますが、今年の夏は大変暑い、雨のない期間が長らく続きました。その後、かなり強い雨の気候が数日続きました。すごく水がない時期、暑い時期とすごく雨量、水浸しの時期が、この入れ替わりが激しくなったせいもありまして、ヒマワリの生育があまりよくなかったわけなんです。圃場の東側は生育が悪くて、圃場の西側はまだ比較的何とか育ってくれたという状況でした。

迷路をつくるに当たって、ある程度のヒマワリの高さが必要なわけなんですけど、今年のヒマワリはそういった気象状況の影響を受けて、大変背丈で言うと低い生育状況にとどまってしまったので、迷路はつくれないと。つくりたいが、しかしつくれないという状況であったので、つくらなかったというのが今年の結果であります。

椅子に関しても、本当に東側はヒマワリが倒れたり、倒れるだけならまだしも、腐ったりというのが大変多くあったので、なかなか楽しんでいただける景観にならないのではないかというふうに思いまして、設置もあえて見送ったというところでもあります。

何とか西側が少しきれいな開花はしていただいたので、今年も様々な方が来ていただいて、そちらで撮影をしていただく姿は私見られて、そこはよかったのかなというふうに思っております。

サンフラワープロジェクトの進捗に関してではありますが、本年度より初めて庁舎内に委員会制という制度をもってして、全庁的な取組として進めております。サンフラワ

ープロジェクトのほか、業務の改善について、あと役場内の様々な環境の整備、美化ですね、5 S委員会と。どこかの議会でもお話ししていたかと思うんですけども、その3つの観点で3委員会を設けて毎月会議をしております。ミーティングを進めております。

サンフラワープロジェクト、今年度の取組においては、ご存じではないと思うのでこういった厳しいお言葉が出るのだろうというふうに思っておりますが、今年度の新たな取組としては、食生活改善推進委員会さんと共同でヒマワリ油を使ったメニューの開発であったり、試食会の取組を行ったことであったり、園むすびプロジェクトさんとも共同で事業を開催するに至りました。文化祭での催事も本年度行うことができましたし、昨年度から継続してという部分で言いますと、小学3年生に向けてのヒマワリに関する教室の実施であったり、年明けて今年度中には、改めてひまわり給食の実施というのも想定をしております。

デザインについても、委員会メンバーの皆さんで協議をしております、いよいよこのデザイナーの方に原案をお渡しし、どういう思いでそのデザインの原案を仕上げてもらうかという時期に差しかかっております。

このひまわり給食、2月になるか3月になるかちょっと定かではないんですが、その時期に同時にリリースをして、メディアの方に対して強い発信を行っていきたいというふうに考えておりますし、商品のほうも1月に搾油の業者さんへの種の輸送も想定しておりますので、それが完成した暁には、そのデザインをもってして、量も限られておりますが、マーケット、市場のほうに何本か販売という形で収益につなげていきたいと思っております。

いろいろお話しさせていただきましたが、中期的な方策については、先ほどの竹島議員の答弁にも回答させていただきましたが、「子育て共助」と銘打ち一定の成果を出してきたこの舟橋村であります、その「子育て共助」というフレーズ、改める時期がいよいよ近づいているのではないかと思います。

ただ、子育ての環境をないがしろにするというわけではなくて、子育てだけにフォーカスしていく時代ではなくて、もう少しその枠を広めて村民の皆さん全員で、ある種、じゃ子育てを助けようよというような状況であったり、関わってもらえる皆さん、舟橋村の村民の皆さんが、それぞれが助け合えるような、子育てだけじゃない共助、全員助けるって「全助」と言っていいか分からないんですけども、そういった舟橋村に昇華させていく必要があると考えております。

そのためにも、この「子育て、子育て」と非常に舟橋村にフォーカスをいただいて大変ありがたいとは思いつつ、一方の高齢者の方にも、さらに元気で充実した日常を過ごしていただく必要があると考えておりました。今ほど申し上げたとおり、投資を行うということは、そういった方々の福祉を向上させることにも私はつながるといふふうに考えておりますし、移動支援、竹島議員のご質問でもお答えさせていただきました。高齢者向けの施策という限りではなく、若年層への福祉施策の一端として、移動支援政策を拡充していきたいというふうに思っております。

答弁のほうも長くなりましたが、いろいろ申し上げました。特段申し上げるところで言うと、この投資に関しては、長期的な視点に立った上で、そして経営的視点に立った上でも、私は必要だといふふうに考えておりますので、いよいよというところで、4年目に差しかかるこのタイミングで来年度の、そういった視点に基づいた予算編成を行っていただきたいというふうに考えておりますので、また改めて3月度議会において議員各位には詳細をご説明させていただきたいと思っておりますので、しばしそれに向けて準備を整えてまいりますので、その旨ご理解をいただきたいというふうに思います。

以上で答弁とさせていただきます。

○議長（古川元規） 森 弘秋議員。

○5番（森 弘秋） 今ほどは村長の力説を聞きまして、少々安堵しました。その言葉に偽りのないように。

今後のことで、「投資、投資」という話だったんですが、8年度予算はいいとしまして、まあ組めると。もっと村長、未来へと持続、未来だけでなく、その先の未来。その未来がもう少し見えなかったかなど。私の意見として、そこら辺りも考えて今後やってもらいたいと。よろしくお願ひしたいと思ひます。

子育て、高齢者、公平で透明な役場づくり、そこら辺りも気をつけて、よろしくお願ひします。

別にご答弁は要りません。